

KIDS SMILE LABO JOURNAL November



大山を越えて

子どもという存在は、私たち大人が思っている以上の力を持っている。その力に、これまで何度も驚かされてきた。今回の大山登山山頂編も例外ではなく、出発から帰園まで 10 時間以上にも及ぶ大冒険をやり遂げてしまうのだから、まさに大人顔負けである。

もちろん、一人ひとりの力も大きい。しかしそれ以上に欠かせないのは、仲間の存在だ。声を掛け合い、励まし合い、ときには黙って寄り添いながら、一步ずつ前へ進んでいく。そうして互いの存在が影響し合い、思いもよらない大きな力が生まれていく。その様子をすぐそばで見守らせてもらいながら、何度も胸を打たれた。

“そう見えるだけ”なのかもしれない。それでも、これだけの大冒険をやり遂げた子どもたちの姿には、やはりどこか変化が生まれる。背中が少し頼もしく見えて、そんな姿がくすぐったくも愛おしい。「ああ、今まさに大きくなる瞬間を見せてもらっているんだ」と嬉しくなる。と同時に、「まだまだ子どもでいていいんだよ」と、ほんの少し寂しくもなる。

山を一つ登って、降りてくる。それは決して簡単なことではない。だからこそ、「こんなに大変なことを自分はやり返したんだ」という確かな実感が、子どもたちの心に刻まれるのだと思う。その経験は、これからの人生のどこかで、自分を支えてくれる“自信”として残り続けるのではないだろうか。

子どもたちから〈もりもり〉の愛称で親しまれている、KIDS SMILE LABO の園長。5 歳と 2 歳、二児の父でもあり、保育と子育てに日々真摯に向き合っている。
趣味は写真撮影で、愛用のカメラは Nikon Zf。
もりもりの生み出す、優しく愛で溢れる世界は note にて随時更新！
子育てや保育への想いも語っています。

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誉



01

異年齢で過ごす子どもたち

ラボは 3 ～ 5 歳児の異年齢保育
その中で過ごす子どもたちの姿に注目

02

乳児クラストピック

年度の後半に入り、
子どもたちの成長をぐっと感じます

03

だいちでめざそう
おおよまさんちょう

だいちさんが挑戦をした
大山山頂編

02

日比野設計がデザインした園舎と
そこで保育をする人たち

れいじくんが九州の園を訪れた
研修報告です

kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo



KIDS SMILE LABO



@kidssmilelabo



@KIDS_SMILE_LABO





Minamo Ozora Daichi

異年齢で過ごす子どもたち

KIDS SMILE LABO の幼児クラス【みなも・おおそら・だいち】では、3～5歳児が同じ空間で生活しています。年齢や発達の違いが自然に混ざり合うことで、子ども同士の関わりや学びが日に日に豊かになってきました。今回は、そんな異年齢で過ごす子どもたちの姿を少しご紹介します。

異年齢クラスでは、年少さんと年長さんでは2年間の経験の差があり、できることも興味も大きく違います。中でも年長の【だいち】さんは、これまで積み重ねてきた経験が多く、年下の子から憧れの存在として見られることが増えました。しかし、すべての遊びや活動を年長児がリードしているかというと、そうではありません。むしろ異年齢保育のおもしろさは、一人一人の個性が混ざり合ったときに、思いがけない遊びや関わりが生まれるところにあります。

例えば、年少の【みなも】さんの遊びが、年上の子の興味を刺激し、一緒に遊ぶ中で【みなも】さんの発想が広がったりします。そのまま別のルールや遊び方が生まれ、各々が新しい遊びへ発展することもしばしば。年齢が上だから、下だから、という優劣はなく、“その子自身の面白さや魅力に惹かれ合う関係”それが KIDS SMILE LABO の異年齢クラスの大きな価値だと感じます。

異年齢で過ごすということは、上の子が下の子を助けるだけではありません。それぞれが持つ個性や興味関心が交わることで、思わぬ学びや成長が生まれます。保育者が準備できるのは「環境」まで。そこから先の世界は、子どもたちが自分たちでつくっていくものです。これからも、子ども同士が自然と影響し合い、惹かれ合い、学び合える日々を大切にしていきたいと思います。

text by Reiji Akamatsu



Daichi Special topic

At Kids Smile Labo, our five-year-old children take on the challenge of climbing to the summit of Mount Ōyama in Isehara City. This time, we're excited to highlight and share a closer look at their adventure.

だいちでめざそう。
おおやまんちょう。

10 月に大山の麓から阿夫利神社まで登りきった経験を胸に「次は山頂！」という気持ちが高まっていました。日めくりカレンダーをめくるたびに「あと何日！」と期待が膨らみ、日が近づくにつれて「緊張する…」「余裕！」とそれぞれの思いを言葉にしながら、登山当日を迎えました。

当日は、電車とバスを乗り継いだ後、阿夫利神社下社までケーブルカーを利用し、そこから山頂を目指します。入口では、大人も思わず息をのむような急階段に不安を感じましたが、「パワー軍手」をつけた子ども達が力強く登り始める姿を見て、「みんななら大丈夫だ。」という気持ちに変わりました。自分の体より大きな岩に挑みながら、一段ずつ足を上げ、体を持ち上げるその背中とはとても頼もしく感じました。

登山道では、ハートの石、あんころ餅の岩、歯ブラシのような木など、子どもたちならではの想像力があふれます。生き物を見つけて観察したり、仲間を待つときは動かず“地蔵”になりきったり。途中のチェックポイントではシールを貼って達成感を味わい、おやつを食べてまた元気に出発します。富士見台では、遠くに富士山が見え、広い空に向かって「やっほー」と何度も声を響かせていました。

歩きながら目安にしていた立て看板の数字もどんどん大きくなっていきます。山頂を目前にエネルギーがさけてしまいそうになりながら、「登頂記念バッジがもらえる！」という楽しみを支えに、最後の力を振り絞りました。そしてついに山頂へ到着。山頂標識の前で写真を撮り、チェックポイントにシールを貼り、保護者の方が作ってくださった愛情たっぷりのおにぎりを食べる時間。最初の一口はみんなで一緒に食べようと声を掛け合い、「いただきます」とともに口いっぱいにはおぼりました。山頂を共にしてきた仲間との絆は1つになり、達成感と安心感からか、黙々と食べ進める子どもたちの姿が印象的でした。

下山は行きとは違う道を下っていきます。山頂までの岩場の道とは違い、階段が多く続く道です。木道が線路のように見え、ロマンスカーの発車音を口ずさんだり、なぞなぞや「最強王」クイズで盛り上がりたり。いつも一緒に過ごしている保育園のみんなのことが気になり、「いま、みんなは何の時間？」と言葉にする様子も。保育者が「そろそろお昼寝から起きるころかな」と伝えと、「起きるよ〜！」と園での掛け声を再現し、笑いながら歩く場面もありました。途中、落ち葉で足をすべらせ、転ぶ場面もありましたが、その経験を通して歩き方を工夫する姿が見られ、たくましさを感じました。鎖を使う場所では真剣な表情で一歩ずつ進み、木漏れ日が作り出す“光の道”や“影の道”を楽しみながら、最後まで自分の力で歩き切りました。

最後に待っていた園のビルの階段。長い登山を終えた後とは思えないほどの勢いで駆け上がる姿に自信と達成感の表れがみえたようでした。保護者の方の想いも力になって登ることができました。たくさんのご協力をありがとうございました。

text by Satomi Horimoto



3〜5 歳児で行った前回の大山登山の集合写真が入ったお守り裏はシールカードになっていて、目標目指して進みました！



am8:07
伊勢原駅からバスに乗車



am9:00
コマ参道「一緒にのぼろう！」



am9:30
ケーブルカーにて阿夫利神社下車着



am9:35 登山スタート！
一番最初の長い階段を一気に駆け上る！



am9:55 夫婦杉到着



代々引き繋がる「地蔵ポーズ」現る



歯磨きの棒、見つけた！



am10:45 忍者屋敷の壁



am10:15
お楽しみのおやつタイム



am11:10 富士見台 20 丁目
天気に恵まれ富士山が目の前に



am11:20
休憩にておやつタイム②



カルタに書きます。お医者さんごっこ



am11:55 山頂到着！



バッチを購入して…



pm12:00 待ちに待ったお昼ごはん



ハートの石



pm1:00 下山開始！



pm2:15 難所の鎖ゾーン



pm2:30
午睡起床時間に「起きるよ〜」
いつもの掛け声を送りました



pm2:45 線路みたいな道



pm2:50 見晴台到着！



pm3:50 阿夫利神社下社 到着！おつかれ山でした。



ここが長い…あと少し！



バスの中ではスヤスヤ…
よくがんばたね、おつかれさま★

pm5:40 ラボ到着

Nobana



探検ごっこ！秋の自然と心のやりとり

秋の自然を探しに、子どもたちは双眼鏡を手に探検へ出かけました。菊やコスモス、バラ、わたげなどを次々に見つけ、いつも見ているトンビも双眼鏡でじっくり観察し、自然の世界に夢中になっていました。

探検の途中、他の色の双眼鏡を使いたくなった友達同士で交換し合う姿がありました。ところが、遅れてやってきた一人の子は交換の輪に入らず、欲しかった色を手にならずに座り込んでしまいました。その様子を見た子どもたちは「どうしたの？」と保育者に尋ね、事情を知ると次々に声をかけにきました。「手をつないでいっしょに行こう」と言っただけだった「この双眼鏡を渡してみただけダメだった」最終的には花と双眼鏡を交換することで気持ちを解決。大人が介入するのではなく、子どもたちが相手の気持ちを考え、

Text by Tami Yamaguchi

Soyokaze



お手伝いから広がる食の時間

夏頃から、調理さんのお手伝いを楽しんでいるそよかぜクラス。キャベツをちぎったり、玉ねぎの皮を剥いたり、もやしを小さく折ったりと様々なお手伝いに挑戦しています。

夏頃は途中で集中が切れることもありましたが、秋になってからはぐんと集中力が伸び、最近では玉ねぎを1人1玉、最後まで丁寧に剥ききることができるようになっていて成長を感じます。

もやしを折った際には、「小さくしたら赤ちゃんも食べられるかな」と声にする子もあり、ポキポキという音や感触を楽しみだけでなく、誰かのことを思って取り組む子ども達の優しさに、心がほっこりあたりました。

お手伝いが終わると「3階に持って行こう！」と、自分たちで調理室へ運ぶことも習慣になっています。

調理さんに「お願いします！」と渡すと、「手伝ってくれてありがとう。」と声をかけてもらい、嬉しそうな笑顔をみせる子どもたち。「これ何になるの？」と自ら尋ね、やりとりを楽しんでいます。

そして、お手伝いをした次の日の給食は、「これ、みんなでむきむきしたね。」と話しながら、友だちと一緒に食べることでいつもよりワクワクした時間になっています。

最近では、誰かが褒められると「私も褒めて！」と張り切って口に運び、褒められると嬉しそうにっこり笑ったり、得意げな表情を見せ、周りも思わず拍手を送る微笑ましいひと場面が見られます。これからお手伝いや給食の時間を通して、食べることの楽しさや大切さを子どもたちと一緒に感じていきたいと思っています。

Text by Rika Fujita

Komorebi



自分で自分で

食欲の秋。こもれびさんも季節の味覚を楽しんでいます。中でも人気なのは「お芋」と「キノコ」。見つけるとぱくつと素早く口へ運ぶ姿がとても可愛らしいです。一方で、蓮根やごぼうなどの少し硬い食材はまだ難しく、口に入れてみても「べえ」と出てきてしまうことも。そのため、小さく切るなど調理の工夫をしています。

また、お肉や魚など「美味しいもの」を覚えてくると、緑の野菜を嫌がる姿も見られます。そんな時は、大人も一緒に食べる姿を見せたり、美味しいものということを知らせて、自分で食べてみたい！という気持ちを育てようとしています。一口食べられた時には、めいっぱい褒めてあげてくださいね！

最近では「自分でやりたい！」という気持ちでぐんと育ち、食事を手伝おうとすると、スプーンを払ったり、お皿を

押しのけたりする姿も。しかし、スプーンに食材をのせてそっとお皿に置いておくという手につけて食べたり、大人の真似をしてお汁を飲んでみたりと、「自分で」の姿が増えていきます。

その気持ちは着替えの場面でも同じです。大人が手伝うと涙してしまうこともありますが、「スポンぎゅっぎゅー！」と動きを見せると、自分で脱ぎ脱ぎと挑戦する姿が見られます。できた時の誇らしげな笑顔は、とびきりの輝きです。つい手伝ってしまいたくなりますが、子どもたちの「自分でやりたい」をできるだけ隣で見守ってあげてください。

その先には、成長の喜びが詰まったキラキラの笑顔が待っていますよ！「できた！」という喜びに共感しながら、子どもたちの成長の一步と一緒に見守っていきましょう。

Text by Miyuki Matsushita